

甲府市議会「政友クラブ」視察研修報告書

報告者 鮫田 光一

1. 日程

令和4年8月17日(水)～令和4年8月19日(金)

2. 視察先、内容

- ① 島根県松江市 『松江市発達・教育相談支援センター「エスコ」について』
- ② 島根県安来市 『日本遺産「出雲國たたら風土記」を活かした観光振興について』
- ③ 一般社団法人境港観光協会 『水木しげるロードについて』
- ④ 島根県出雲市 『出雲市自治会等応援条例について』

3. 参加者9名

原田 洋二 鈴木 篤 坂本 信康 長沼 達彦
小澤 浩 末木 咲子 深沢 健吾 鮫田 光一

【視察概要①】

① 島根県松江市

- (1) 視察日時 8月17日(水)
- (2) 視察場所 島根県松江市
- (3) 視察内容 『松江市発達・教育相談支援センター「エスコ」について』
- (4) 対応者 松江市 発達・教育相談支援センター 所長 山本務 様

② 視察内容

松江市 発達・教育相談支援センター 所長 山本務様 挨拶
政友クラブ 副代表 長沼達也議員 挨拶

・発達・教育相談支援センター エスコ について

松江市には私立の小学校はない。甲府市とは人口はだいたい同じ、面積は松江市が2倍ある。特別支援学校に入ったり、特別支援学級に入ったりする相談は全て「エスコ」に来る。特別支援学級在籍児童生徒数は519人であり、右肩上がりが増えている。内、自閉症など307人。「エスコ」設立の経緯は、相談が小学校に入った時に途切れてしまう。幼稚園から青年期まで一貫した相談支援体制をつくること。建物1階は保健センター、2階乳幼児健診会場、3階がエスコとなっている。各所属所とタッグを組んで早期に対応できるようにしている。幼児が通ってくる。小学生も受け入れてほしいとの要望もあるが、今はできていない。現在の傾向は小学校に入って見せたいというご家庭が多く、その時の相談が多い。

子どもを取り巻く問題は、児童相談所や虐待関係の機関と連携して取り組んでいる。いじめ、不登校、問題行動、虐待、発達障がい、5 障がい、ゲーム障がい、パーソナルゾーンの子どもが困っているなど。もともと特別支援幼児教育設置園が 10 ほどあり、そのほかにエスコができた。早期からの相談支援体制の特徴、多層的な相談体制について説明。教育、保健、福祉、医療等の連携については、健康支援課、子育て支援センター、子育て政策課・支援課、生涯学習課、青少年支援センター、生徒指導推進室、学校教育課、障がい者福祉課、期間相談支援センター“絆”、家庭相談課、県の発達障がい者支援センター「ウィッシュ」などと連携している。ほっと相談会について、年に二回開催。連携支援のツール サポートファイル「だんだん」を配布している。エスコのメリットは、早期に保護者の気づきを促す相談体制、幼児期の支援体制が充実、就学を見据えた支援体制、前向きで協働的な連携支援体制のきっかけ。エスコのデメリットは、現場の相談支援力の低下、高校生以上青年期への対応、客観的な評価・検証、専門性の維持。年間予算は約 1 億円。9 割以上は人件費です。島根県では地域に特別支援学級を必要とする子がいればすべて作ります。一つの小学校で 6 つの特別支援学級があるところもあります。課題について、引継ぎや関係機関による配慮と質の保障された情報共有、相談の件数、内容の多様化・複雑化への対応、家庭への継続的な支援、思春期等将来を見据えた自己理解の支援、まわりの子どもや保護者への説明、二次的な問題への対応、小中学校の支援環境整備など。

小学校に入ると放課後デイサービスとの連携は、放課後デイサービスと学校とのトラブルが増えている。秋には放課後デイサービスに向けて講義をすることになっている。学校にも理解が必要である。

発達障がいの見極めは難しいと思いますが、相談が合ったうちの 2 割くらいの方が発達障である。小学校に行ってから行く子もいる。

甲府市でも発達障がいが増えている。小学校と幼稚園は近くにあっても連携できていない。予算の特別支援教育支援員配置事業費は交付税も 1 校が学級数が 18 学級ないとできない。市単でも出していかなければいけない。

お礼の言葉 鈴木 篤 議員



【視察概要②】

① 鳥根県安来市

(1) 視察日時 8月18日(木)

(2) 視察場所 和銅博物館(鳥根県安来市)

(3) 視察内容 『日本遺産「出雲国たたら風土記」を活かした観光振興について』

(4) 対応者 安来市 政策推進部観光振課 大谷課長、政策推進部観光振課 築谷主任主事、教育委員会文化財課 金山課長、教育委員会文化財課 荒川特別研究員

② 視察内容

安来市議会前田事務局長 ご挨拶

安来市議会永田巳好議長 ご挨拶

政友クラブ 長沼 達彦 副代表 挨拶

農業と工業の安来市について

日本遺産に H28 年 4 月 25 日に認定され。 安来市 雲南市 奥出雲町と 31 の構成文化財が在る。

日本遺産をストーリーを語る中で世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けている。

神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の物語がある。

重点支援地域として他の地域のモデル地域となる。

『出雲国たたら風土記』エリアブランド構築事業

事業内容

情報発信育成事業

普及啓発事業

公開活用のための整備にかかる事業

調査研究

鉄の道文化圏推進協議会事業

各種会議

情報発信事業

観光客誘客事業

今後の取り組み

日本遺産推進事業の運営組織体制の強化

ゲートウェイ機能の強化

観光事業化

景観や町並みの整備

地元のスパイスという番組などや FB など発信して PR

たたら体験事業など一般の方に無料で経験

たたらの説明をする方々の育成
たたらを砂鉄などから体験
インバウンドの、ために多言語やHPで紹介
日本遺産フェスティバルへの参画

砂鉄、ゲートウェイなどを外に(観光)出していくには、ターゲットを絞って活用していく。
日本遺産から学べるように、目標を達成出来るように計画を立ていく。文化価値でなく活
用に着眼していく。体験学習などで興味を持たせる。

